

地球科学輻合ゼミナール (2014年度 後期 第10回)のご案内

火山活動の多様性とマグマからの脱ガスに関連する最近の話題

鍵山 恒臣

京都大学 大学院 理学研究科 地球熱学研究施設

火山活動が爆発的なマグマ噴火になるか、水蒸気噴火になるか、地熱活動異常だけで終わるかは、マグマからの脱ガスが大きく影響していると思われる。火山の周辺で電気伝導度分布を調査すると噴火中心から周辺部に向けて電気伝導度の低下が観測されることがあり、マグマからの脱ガスの証拠と思われる。しかしながら中部九州の火山で調査を行うと、火山体下部からの脱ガスではなく、中央構造線の延長である大分ー熊本構造線やその他の断層に沿って高電気伝導度域が分布している結果も観測されている。マグマからの脱ガスだけではなく、活構造を通じた揮発性成分の移動も重要であることが考えられる。また、中部九州には溶岩ドームを持つ火山群も数多く分布している。これらの火山活動にも、マグマからの脱ガスが影響しているように思われる。

1月14日(水) 午後4:30～午後6:00
場所: 理学研究科6号館303号室